

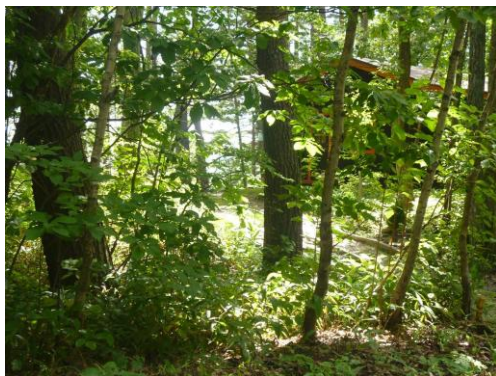
家のまわりに生えるりこうぼう(はないぐち、ぬめりいぐち)
清水高原では9月初めから9月末くらいまで多い年では毎日のごとく取れる、今年は不作の年で家の周りで10本程度とれたくらいです。お勧めはうどんに入れてたべるとよくうどんとあいます、その他味噌汁や大根おろしで食べるのもおいしい。

私が子供のころ松本盆地の東山(東城山や千鹿頭)にいて良く取ったものです、昔のほうがよく生えていた気がしている。このきのこは、非常に分かりやすく美味しいきのこなので清水高原に越してきてから毎年食しています(このきのこ網だけ以外はわからない)昨年、唐沢そば「山法師」の上條さんより栗たけをおそわり3種類になりました。



<りこうぼう>

きのこの栽培は、伐採した栗やくぬぎの木を80cmくらいに切り、ホームセンターから買ってきた菌を植えて置いておくと、きのこが出てきます。いまのところシイタケのみ栽培してみました、この方法のきのこは、なめこ・ひらたけの菌が店に売ってるが見るだけに終わっています。



<別荘の家のまわり1>

りこうぼうの栽培ができないか?

興味ある記事を見つけたので紹介します、「林地栽培」りこうぼうは外生菌根性キノコであるため、共生主となるカラマツ林の発生環境の整備が主な内容となる。3~5月に林地内に生えている雑木や下草、厚く堆積した落葉の除去を行う。9~10月には、前もって別な林で採取した子実体の管孔部分の粉碎物の水希釈液を林床に散布する。散布は降雨の直前または

夕方が望ましく、1年に1~2回行い2年程行う必要がある。発生環境の整備開始から3年目となると子実体が発生するが3年目は採集(収穫)を行わない。3年目以降から採集を行うが、傘が開いたものは孢子源とするため採集はしない。

素人の私には、この記事からは読み取れない部分が多々あります。

一番分らないのは、唐松林の混み具合をどのようにしたら良いのか?、間伐を多くすると、日が射し過ぎていけないし、あまり混みいいっていると風も通らないし・・・モデル林があればいいなと思います。

二番目には、清水高原にはささが多い、このささとの関係をどうしたらよいのか? ささの根は深いのでこぐわけにはいかない、茎をきってもきっても生えてくるし始末に困る。

あとは、子実体の管孔部分とか専門用語かな。

歳時記ホームはこちら

<http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>



<別荘家のまわり2>